

藤 沢

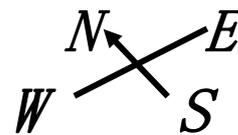
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2023年9月1日

第352号

<http://econet2015.sakura.ne.jp>事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / FAX 0466-87-4922

主な記事

- ・津波避難施設整備計画の見直しを要請
- ・戦時教育の戦争体験を聴く
- ・平和の大切さを噛みしめる
- ・世界中が笑顔であふれますように！

放射能汚染水海洋放出 ～核被害国から核犯罪国へ～

世界各地のスタンディングや署名の甲斐もなく、8月24日、放射能汚染水は海に放出され始めました。

安倍前首相は、2013年の東京五輪の招致演説で、汚染水状況について「アンダーコントロール」とウソをつきました。放射能汚染水の閉じ込めは、もともと成功していたわけではありません。デブリを冷やすための水に地下水や雨水も混ざり込んで多核種を含んだ汚染水の一部は海に流れ出ているのです。今年の5月に港湾内から獲れたクロソイから、食品衛生法の基準（1キロ当たり100ベクレル）を大幅に上回る18000ベクレルもの高濃度の放射性セシウムが検出されたのもそのためです。

2018年の調査で、タンクに貯められているALPS処理水の中にも、トリチウムだけではなく、他の核種も含まれていることが判明しています。東電のホームページにはそのことが詳しく書かれています。あたかもトリチウムだけが問題であるかのような報道がなされていますが、海へ放出された汚染水にはトリチウム以外にも多核種が含まれているのです。

国内外から寄せられている多くの反対意見やコンクリート化して地上に保管するという提案に対し、政府は、「薄めれば安全」、科学的に安全基準を満たしている、「風評被害」を起こしてはいけない、と繰り返しています。反対するのは、「非科学的」だと言わんばかりです。

はたしてそうでしょうか？

放射性物質は、たとえ微量でも体内に入ってしまうと、DNAを傷つけ生命体に害を及ぼします。特にトリチウムは水と同じなので、体のあらゆるところに取り込まれます。トリチウムはγ線を出さず半減期が短いと強調されますが、β線による内部被曝の懸念があるからこそ、人々は反対しているのです。

東電の計画では年間22兆ベクレル以内のトリチウムが30年にもわたって海へ放出されます。生物濃縮が起こり、水産物の安全は懸念されます。太平洋沿岸地域への影響も計り知れません。「科学的に安全」などとは、とても言えません。

市民団体と連携し158団体を取りまとめて海洋放出の中止を呼びかけている「放射線被ばくを学習する会」の温品惇一氏は、「汚染水の海へのダンピングは、日本が核被害国から核犯罪国に変わる重大な問題だ」と述べています。（すどうゆりこ）



遠藤 慶応大学脇の並木道 真夏日を受けて

津波避難施設整備計画見直しを要請

1. 行政説明

6月議会で片瀬海岸3丁目9番先の避難施設につき審議報告、6回目住民説明会が7/26片瀬市民センターで開催、地域の方々に図面等を基に防災政策課が説明した。この屋上階避難床7.05mの提案に、住民側からは納得できぬゆえ再検討するよう、再度口頭要請をした。防災安全部として対応中。

2. 住民・町内会要請

①県土木部に赴き確認、藤沢市防災政策課説明の津波予想値(基準水位)は藤沢市が設定している津波予想値であり県は関知していないと説明受けた。従って配布された建築図・構造図などゼロベース見直し・修正を求める。

②市内片瀬海岸2丁目の湘南白百合学園幼稚園は平成25~26年工事竣工、最上階避難フロアは11.4m、第一種低層住宅地にある2丁目(3丁目)として法律上規制を12mまで緩和することを行政が対応し、避難民を守る施設の設計・施工を行った。

③今般の3丁目現場は片瀬海岸と境川からの津波が両方向から押し寄せる現場に当たり、地域住民は、建築・土木の計算方式を住民自らはできないが、地盤高7.05mで済むとは到底思えない。納得できる地盤高で

ない限り住民・町内会は協力できない。

④730人収容する施設である。一時避難所であれ人間が数百人集合すれば、医療対応や生活面での電力が要る。更に気候変動による熱波現象が10年前に比べると各段に厳しい情勢あり、熱中症・災害関連死の増大対策から屋上避難所は青天井でなく避難部屋としての屋根・壁・空調(冷房・暖房)完備の対応が不可欠と考える。

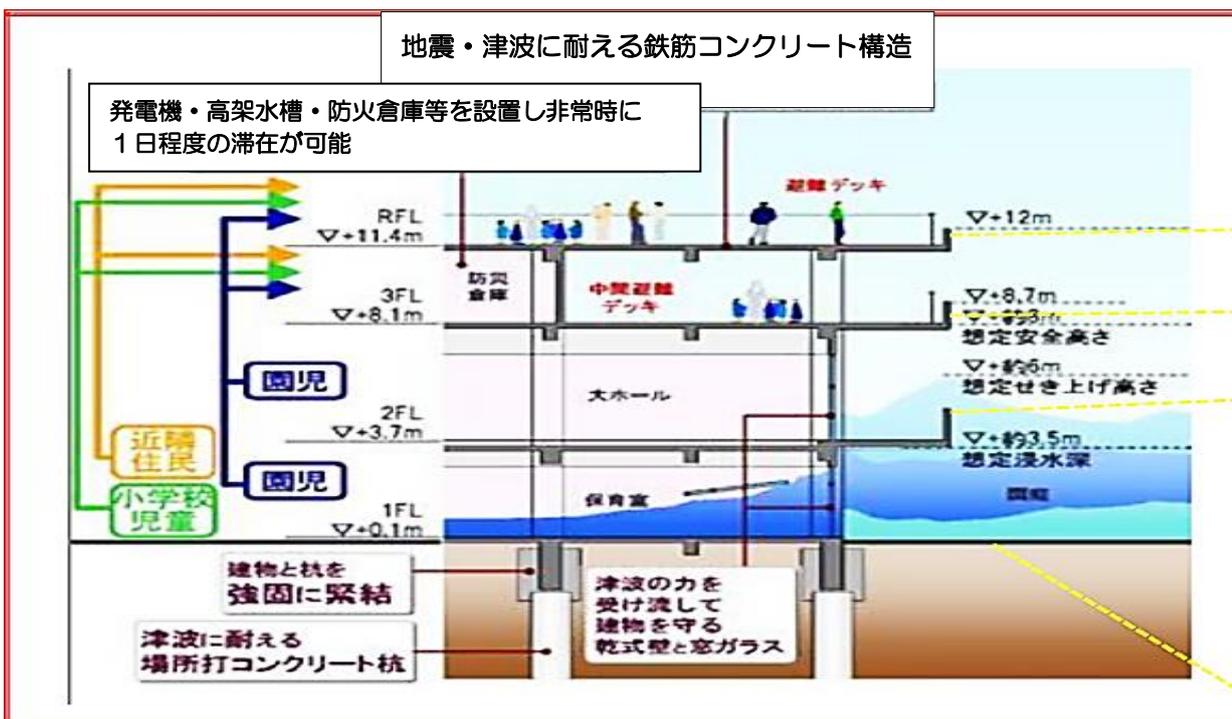
⑤南海トラフ対応を真剣に考えた平成25年度段階で、高知県ではタワーの高さと避難部屋まで気を配った設計・施工されている箇所がある。10年前より厳しい避難環境であること認識し、【地盤高10m以上】と【熱中症対策の電源】配慮望む。

(片瀬海岸在住・山屋)

計画中の片瀬津波避難施設地盤高7.05m



湘南白百合学園幼稚園階層イメージ図 11.4m



小学生時代の戦時教育について 戦争体験を聴く

さる7月22日、湘南大庭九条の会主催で、今年90才を迎えた藤沢市内在住の飯田玲子さんの戦争体験を聴く会が開かれました。

あの戦争の時代は、飯田さんの小学生時代と重なっており、当時どんな学校教育が行われていたのか、子ども目からみた実態が、なまなましく語られました。

たくさんのエピソードが語られましたが、2～3紹介すると、学校教育では、まず登校時「今日も学校に行けるのは、兵隊さんのお陰です」と言って集団登校、学校に着くと「点呼、朝礼、宮城礼拝」教室に入ると短歌朗詠、体操は2列横隊分裂行進などが行われたとのこと。課外教育では「出征兵士のお見送り、傷病兵の慰問、神社清掃」などが行われ、飯田さんは、家の近くの靖国神社の清掃も行ったとのことでした。

靖国神社の清掃の時、通りかかった東条英機首相に頭をなでられ、ほめられているところが写真入りで新聞に報道されたこともあったとのことでした。また「欲がりません勝つまでは」と言って友達二人で薄着競争といって、冬でも上着2枚で登校していたら、担任の先生から親が呼ばれ、これでは身体をこわすから止めるようにと注意されたこともあったとのことでした。

この他、沢山のエピソードが語られましたが、当時の子どもたちが、どんなに一生懸命、軍国少年、軍国少女になろうと努力したか、痛々しいまでの体験が話され、心を痛めるお話ばかりでした。本当に、軍国主義と一体となった学校教育は恐ろしいものです。

子どもたちの心を変えてしまうのですから。これからは、絶対に同じような時代を繰り返ささせてはならないと、つくづく痛感した次第です。

なお、今回の飯田さんの講演は、YouTubeに投稿され、「飯田玲子」と検索すると動画が出て来ますので、

詳しくは、それを開いてご覧下さい。

(小林麻須男)



平和の大切さをかみしめる

4年目になる天獄院での平和の鐘つき、8月6日、広島原爆投下の日、参加者14名(うち子ども3名)、全員が鐘をつかせてもらえ、広島に向かって黙祷をしました。その後、お借りした部屋で平和展(戦争や平和に関する絵本、原爆の絵や写真、署名を置いて)、絵本読み聞かせ、感想を出し合い、想いを共有しました。

今年の絵本は『せんそうしない(文：谷川俊太郎)』、「〇〇と〇〇はせんそうしない」と淡々とした文章が繰り返されます。後半は、今の日本が突き進もうとして

いる状態が絵本から伝わってくる内容になっています。

8月9日(水)長崎の日、24人参加(うち子ども9名)、6日の内容に加えて、今年は住職さんから「私たちの命や自然は預かりもの」「子どもがあつての親だし、夫があつての妻」、その存在自体に感謝し大切にしましょう、というお話をいただきました。



あつての妻」、その存在自体に感謝し大切にしましょう、というお話をいただきました。

小2の娘さんと初めて参加したお母さんは「娘が七夕の短冊にウクライナのことを書いて、戦争について話すようになった。どう説明したらいいかわからず、今日の行動に参加してみようと思った。来て良かった」と、年長の男の子2人は「1年に1回、また来年だね」と、小5の私の息子も毎年参加していて「戦争は敵味方関係なく人が死んでしまうから、しない方がいいと思う」と話していました。

地域の人たちや家族と平和や戦争について考えるこの行動の大切さを実感した2日間でした。「子どもは体験と体感が大事」と住職さんが話していたように、子どもたちとこの鐘つき行動を続けていくことが平和への一歩につながるのかなと、平和の大切さをかみしめるひとときとなりました。

(山口哉子)

世界中が笑顔であふれますように!!

息子が何才のときだったか忘れたが、私の年賀状に「世界中が笑顔であふれますように！」と書いたらと言われ、ハッと気づき息子の願いや地球上の多くの人々が望んでいる願いをそれ以来書き続けている。それ以上のことは忙しさにかまけてこれといった平和の活動をしていなかった。

今から10年前、ボランティア仲間誘われ、ふじさわ九条の会に入会した。戦争放棄の9条、これこそ一人でも多くの人に賛同してもらい、いつまでも平和な世界であってほしいという私の願いと合致。9条ニュースは会員数だけでなく、一般の人に活動を知ってもらうために渡せたらいいねと提案、行動も9の日行動1日だけでは少ないのではないかとこれも仲間に伝え、今では毎週月曜日に藤沢駅南口に立ち、垂れ幕で今問題になっていることを訴え、署名をしてもらっている。細やかな行動かもしれないが、軍事費拡大反対、重税反対の声を上げている。



私が「平和の輪を広げる実行委員会」を知ったのは9年前、私はその頃何か行動をしたいと思っていたので早速応募。4月から活動開始、そして長崎派遣事業に手を上げ、引率者の一人

となった。長崎訪問の事前学習を行い、各班ごとに「平和への願い」をこめた旗をつくり、会場に持参。皆の心こめて折られた千羽鶴も同会場に飾られた。長崎の日差しは今ほどではないが強かった。ボランティアの「平和案内人」に被爆跡を案内してもらった。原爆資料館では落とされた原爆の模型を見たり遺品を見学。怒りと共に被爆者の無念さを思い、ぐっと涙を抑え見入った。派遣者達も同じ思いに心が痛んだであろう。これらを見聞きすることで一層参加者と感動を覚えた。

9日、原爆投下の日に平和祈念式典に臨み、原爆死没者の霊を慰め、いつまでも続いて欲しい世界平和を祈った。歴史から学び考え続け行動し、核兵器の廃絶を求めて行きたい。

平和で愛にあふれる世界。世界中が笑顔であふれますように!! (福永洋子)

ECONET INFORMATION

▲映画「原発をとめた裁判長

そして原発をとめる農家たち

9月30日(土) 午前の部 10時上映のみ

午後の部 13時上映と監督のトーク

&樋口元裁判長の講演

場所=Fプレイスホール(旧労働会館)

チケット 当日券 午前の部 2000円

当日券 午後の部 2500円

主催/実行委員会 090-3439-2431 益永



▲ふじさわ平和文化展

9月19日(火)~24日(日)

藤沢市民ギャラリー(小田急湘南 GATE6階)

10:00-19:00 問合せ 44-5067(平綿)

▲「沖縄 再び戦場へ」上映

9月24日(日) 10:00-11:30 13:30-14:30

9月25日(月) 10:30-11:30

場所 エコストアパパラギ2階 1100円

主催/申込み 0466-50-0117 NPO 気候危機対策ネットワーク ・エコストアパパラギ

▲「楽園の予感」山内若菜展

9/27(水)~10/26(木) 13時~16時

場所 エスポアール(片瀬山 3-34-4)

問合せ Tel.090-8776-7501

▲藤沢エコネットから

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

【ゆうちょ銀行 加入者名 藤沢エコネット

口座番号 00240-9-46501】

◆事務局会議 9月2日(土)10:00-六会公民館

《編集後記》今号は平和に関する記事が多いが目を通していただきたい。78年前の生活や出来事を風化させまいとふりしぼってお話下さった方、核兵器のない平和への願いを届けたいという子どもたちも登場。原爆投下、終戦記念の8月に特化しないでいつもいつも誰もが平和を願いたい。

この夏は「地球沸騰化の時代到来」とグテレス国連事務総長が警告したが気候危機の対策を急がねばなるまい。(H)